



# 愛知陸協広報

第 17 号

22 年 3 月 25 日発行

愛知陸上競技協会

〒460 - 0012 名古屋市中区千代田二丁目 19 番 16 号千代田ビル 7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

e-mail ark@marble.ocn.ne.jp

ホームページ : url <http://gold.jaic.org/jaic/member/aichi/>



## この一年を振り返って

理事長 外山 幸男

事務局をお預かりし、滞りのない業務と運営をして参りました。登録会員の増加、公認審判員の増加、財源の安定確保という課題も、専門委員会のご協力で概ね達成できたものと思っております。明るい愛知陸協事務局も皆さんに好評を得ております。

登録会員数を見ても全登録数は、15,977 名になりました。

愛知陸協の大会経費面を見ると、参加料収入では賄いきれない大会がほとんどであり、共催・主管のマラソン・ロードレースの強化協力費などで運営してきていることもご理解ください。

法人化に伴う事務局経費については、今以上に必要になるものと考えていますので、その対策も急がねばなりません。しかし、選手強化にかかる強化合宿等の経費は、愛知県体育協会からの補助金に加え、愛知陸協としても国体、都道府県対抗駅伝、ジュニアオリンピック等全国大会で十分に活躍できる額を用意しています。

各専門委員会はそれぞれの役割に従って、委員長を中心に専門委員の方々の協力の下に、1 年間順調に運営していただきました。この広報誌も一年の間に 14 号から 17 号が発行され、登録会員はもとより関係の団体に、愛知陸協の活動状況を詳細に報告することができました。そうした活動の中でも、委員会にかかる経費には節約に努めていただきました。

平成 21 年度は日本代表として海外に派遣された選手は 10 名を数えました。全国大会での優勝者は、日本陸上競技選手権で 3 名、全国高校総体で 1 名とリレー、全日本中学選手権で 1 名、ジュニアオリンピックで 2 名とリレー、国体で 1 名でありました。全国高校女子駅伝で、豊川高校が目標の 2 連覇を達成したのはうれしい限りです。

都道府県対抗女子駅伝においては 7 年ぶりの 7 位となり、上位入賞の目標も明確になりました。

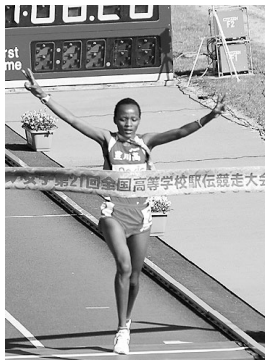
記録の面から見ますと、愛知県新記録が 7 種目、同タイ記録が 2 種目、愛知県高校新記録が 9 種目、愛知県中学新記録が 12 種目で誕生しました。

支部においても、尾張支部に待望の全天候舗装の競技場として、県営一宮総合運動場陸上競技場が完成し、4 月から支部の競技会が行なわれました。好記録の誕生も見られ、選手強化に期待が大きく膨らんでいます。

今シーズンの愛知陸協主催・主管のマラソン・ロードレース・駅伝の大会も、名古屋国際女子マラソンをもって終了しました。審判員の方々、補助役員としてご協力いただいた各登録団体、高校生諸君に感謝申し上げます。引き続き、トラックシーズンがスタートします。新しいシーズンにおいては、IAAF の競技規則改正に伴い、日本選手権等の全国大会でも不正スタート 1 回目失格が採用されます。また、「位置について」「よーい」も英語で「オン・ユア・マークス」「セット」となります。その他規則の改正にもご留意ください。

一昨年のレディース陸上競技大会、昨年 9 月の全日本マスターズ選手権の成功をステップに、日本ジュニア・ユース選手権大会を 10 月 15 日（金）～17 日（日）に開催します。高校生・中学生の秋のシーズンの目標となる大会として、愛知での継続開催を目標に運営するとともに、この大会での愛知の諸君の活躍を期待したい。

「陸上王国愛知」の復活を目標に、今年も選手強化、普及、競技会運営により一層のご協力をお願いします。



2 連覇のゴール



喜びの豊川高チーム

## 支 部 報 告

## 名古屋支部

平成 21 年度の支部主催及び協力事業は、多くの関係者の協力により無事終了することができ、深く感謝しています。陸上教室（陸協主催、支部普及）は、雪の影響で各々 1 回中止となったのは残念でした。冬季強化計画に影響が出ないよう、新シーズンを迎えてほしいものです。日本陸連の U-18 教室も瑞穂で開催され、トレーニングの意識改革に一役かいました。12～3 月の駅伝大会では、名古屋支部の選手団体の活躍には目を見張るものがありました。都道府県対抗駅伝（男・女）では、金尾、山口、西川の 3 名が、県代表として中心的な働きをしました。名岐駅伝や市町村駅伝でも、数多くの選手が目覚ましい活躍をしました。県記録更新は、中学校 6 種目・高校 4 種目あり、昨年同様、中学・高校の活躍が目立ちました。毎年実施している支部表彰も、候補者が多く選考に苦慮しています。また、名古屋市委託のふれあい陸上教室（小・中）も年間 10 回実施され、関係者の熱意に感謝しています。

いよいよ平成 22 年度のシーズンが始まります。今年から全日本ジュニア・ユース大会が瑞穂で開催されます。小中高校生の一層の活躍を期待しています。

- 1 平成 21 年度支部表彰（4/4 表彰伝達）  
優秀審判員、優秀指導者、優秀選手
- 2 平成 22 年度交代理事（4 名）  
山本涼子、三輪栄治、渡辺幸太、石田 伸
- 3 今後の予定（4～6 月）
  - ① 4/3・4（土・日）第 1 回名古屋支部陸上記録会（瑞穂）
  - ② 5/8・9（土・日）第 2 回名古屋支部陸上記録会（半田）
  - ③ 5/22（土）名古屋支部中学混成・小学生春季記録会（半田）
  - ④ 6/5・6（土・日）県選手権名古屋支部予選会（瑞穂）
  - ⑤ 6/12（土）中学通信名古屋支部予選会（瑞穂）
  - ⑥ 6/19（土）中学通信名古屋支部予選会（知多）
- 4 4 月以降、名古屋市陸上競技協会が加盟している（財）名古屋市体育協会は、（財）名古屋市教育スポーツ振興事業団に吸収合併され、名称は、（財）名古屋市教育スポーツ協会となる予定です。（坂井田醇三）

## 尾張支部

## 平成 21 年度を振り返って

平成 21 年度を締めくくる最後の事業、第 57 回尾張駅伝競走が 1 月 24 日（日）新装になった愛知県一宮総合運動場陸上競技場および周辺周回コースで実施された。各チームの中継の様子はスタンドから眺めることができた。競技場バックストレート中央付近でのタスキリレーを復活させ、7 部門すべてを 5 区間に設定して新たなスタートを切った。7 部門に 97 チームが健脚を競った。

成績は以下のとおりである。

## 一般男子（20.8km）

1 位 小牧でんでんむし A 1.07.35

2 位 尾張クラブ 1.11.02  
3 位 三菱電機稲沢 1.24.53

## 高校男子（20.8 km）

1 位 弥富 A 1.05.00  
2 位 弥富 B 1.06.33  
3 位 津島北 1.06.56

## 高校女子（18.7km）

1 位 弥富 1.08.39  
2 位 津島北 1.11.35  
3 位 一宮西 1.15.30

## 中学男子（14.5km）

1 位 古知野 A 47.54  
2 位 犬山 A 49.53  
3 位 犬山 B 50.01

## 中学女子（14.5km）

1 位 祖父江 A 54.19  
2 位 古知野 A 56.28  
3 位 今伊勢 57.51

また 3 回にわたって企画運営された支部陸上教室では、申し込みが小学生 51 名、中学生 168 名、高校生 380 名あり、単発の参加者も含めると 600 名を越す盛況であった。改修された競技場で活動できる喜びを示す数字であった。

ダイナミックな動きを示した 21 年度が終わり、新たな年度に支部全体が飛躍できるよう願い、平成 22 年度は新規事業を含め、支部主催の事業拡大も視野に計画を進めている。大いに支部の飛躍を期待している。引き続きのご支援ご協力を希望しています。



（原川 豪）

## 西三河支部

21 年度最後の行事となる陸上教室は、12/23・26、1/23 の 3 回にわたり安城陸上競技場・野球場を使用し実施しました。天候にも恵まれ各 700 名以上の参加者がありました。

たえず 40 名近くのコーチングスタッフ（トレーナー含む）のご指導のお陰で、一人一人に行き届いた教室でありました。

支部の選手は全国・東海大会で大活躍してくれました。

## ☆高校生

山本聖途（棒高跳）・山本 龍（800m）・天野涼太（110mH）・川端哲也（走高跳）・中嶋文望（走高跳）・後藤香奈（100m）＜以上岡崎城西＞  
萩原麻子（やり投）＜豊田大谷＞  
壁谷智之（400m）＜岡崎＞  
前川知美（3000mW）＜岡崎商＞  
岩月愛子（走幅跳）＜安城学園＞  
南晋太郎（走幅跳）＜三好＞  
岩崎美希奈（3000m）＜西尾＞

## ☆中学生

浅井真子（走幅跳）＜城北＞  
谷 優奈（100mH）＜保見＞  
西山 令（1500m）・稲葉康太（1500m）＜以上葵＞  
山田日菜野（800m）＜三好北＞  
野本健太郎（走幅跳）＜六ツ美＞  
鈴木麻莉華（走高跳）＜岡崎南＞

## クラブ紹介⑪ 布袋陸上クラブ

### 「発足・メンバー集め」

平成18年春、江南市初の小学生陸上競技クラブとして発足しました。この春で結成5年目を迎えます。小学生陸上競技クラブのないところに立ち上げるわけですから、スタッフで色々なメンバー集めのアイデアを出し合いました。



二人を結びつけた32年前の「陸上競技マガジン」を手に（左安藤淳一、右筆者）



今年がんばるぞ!!と意気込むクラブ員

江南市広報やタウン誌の募集欄に掲載していただきました。それとチラシを作成し、ポスティングも行い周知に努めました。

平成18年3月、県営一宮総合グラウンドで説明会を開き、翌週の日曜日には、20人の子どもたちが入会し、布袋陸上クラブがスタートしました。

### 「クラブ員・指導者」

江南市内の小学生を中心に小学生32名、中学生2名の子どもたちがいます。

和歌山出身の柳澤、地元出身の安藤、井戸田の3名で指導しています。

### 「練習」

定期練習は、一宮総合グラウンドで毎週日曜日14時から16時。大会前は、臨時に毎週土曜日の午後にも練習をしています。時には、平日、江南市内の中学校でナイター練習もします。練習内容は、春から秋にかけて、試合に即した技術練習を中心に行なっています。冬は、ゲームや長距離走や自衛隊体力錬成運動を行なっています。

### 「オープニング・イベント」

オープニング・イベントとして、平成18年5月、クラブ代表と同郷である元オリンピック入賞選手を招聘し、「ランニングクリニック」を開催しました。参加者は江南市や近隣の小中学生80名でした。子どもたちも元オリンピック選手と身近に触れ合い、よい思い出になりました。また、参加者の中から全国中学生大会入賞、高校総体出場や優勝、国体入賞、全国高校駅伝出場者が出たことは主催者として嬉しい限りです。

### 「広報」

愛知県小学生大会で入賞すると、地元ローカル新聞「尾北ホームニュース」に写真入りで掲載されることは、子どもたちにも励みになっています。

### 「愛知県大会初参加」

平成18年7月の愛知県小学生リレー競走大会で優勝者1名、入賞者2名で初陣を飾ることができました。それ以降の大会にも入賞者が出ています。

### 「指導者の出会い」

布袋陸上クラブの指導者の出会いを紹介します。柳澤と安藤は32年前の和歌山県と愛知県の100mハードル中学生最高記録保持者です。当時の陸上競技マガジンに県別中学通信大会の結果が掲載されていました。柳澤が愛知県の結果を見ると、記録と風力がほとんど同じ「安藤」の名前を知りました。中学名の「布袋中学」を「ぬのぶくろ中学」と読み、世の中には、変わった名前の中学もあるものだと特に気になっていました。就職で愛知県に来て布袋出身の妻と知り合い、布袋で居を構えました。偶然にも地元の祭りで安藤氏と出会い、意気投合して布袋陸上クラブを結成しました。この出会いは不思議な出会いです。説明のつかない縁を感じます。

これからもこの不思議な出会い・縁を大切に、共に力をあわせて布袋陸上クラブを続けて行きたいと思っています。布袋陸上クラブで陸上競技に出会った子どもたちには、末長く陸上競技に親しんでほしいと願っています。

最後になりましたが「布袋」と書いて「ほてい」と読みます。間違っても、私みたいに「ぬのぶくろ」とは読まないでください。

(クラブ代表 柳澤 利夫 記)

伊藤雅明・村瀬雅季・遠藤侑汰・外山達成（低学年4×100mR）< 篠目 >

☆小学生 とよた AC、安城 JAC、安城里町 AC、岡崎 JAC など数多くの選手・団体が挙げられる。来年度の更なる活躍を期待したい。

底辺拡大のため、熱心にクラブチーム（小・中学生）の指導をされている先生方のご努力には大変感謝しています。ただ一つ注意をしていただきたいのは、常は学校の管理下で生活をしているということです。その団体の関係者との連絡を密にしてトラブルが起きないことが最も重要だと思いますので、よろしくお願いたします。

永年、岡崎城西高校陸上競技部監督として活躍をされて西三河を支えていただきました、村上脩一先生（現校長）が本年度を以て勇退されます。創立3年目よりスタートした陸上競技部を、全国レベルまで引き上げられたご努力に敬意を表します。今後も引き続き西三河支部の陸上競技の発展のため、ご活躍をお願いいたします。（柴田 和秀）

## 東三河支部

### 21年度を振り返って

この1年は東三河支部にとって、とても充実した1年でした。そこで、私の独断で今年の10大ニュースを作ってみました。

#### ☆第1位 豊川高校が高校駅伝女子2連覇達成

第1位については、誰もが認めてくれることと思います。わずか13名の駅伝部員で、全国の強豪を相手に仙台育英、埼玉栄に次いで3校目の2連覇達成は賞賛に値するものです。また、1区の伊澤菜々花は、前日の選手宣誓や高校総体3000m優勝者ということで、すべての人から注目されるなど様々な重圧の中で自分の力を出し切り、トップで棒をつなぎました。この時点で豊川高校の優勝を確信したのは私一人ではなかったと思います。

#### ☆第2位 高校総体での大活躍

7月29日～8月2日に、奈良市で行なわれた全国高等学校総合体育大会に、5校から14名の選手が出場を果たしました。そして、女子3000mで伊澤菜々花（豊川）が優勝し、鈴木亜由子（時習館）も8位に入賞しました。また、男子1500mでは、小島秀斗（豊川工）が8位に入賞しました。

#### ☆第3位 全日中での大活躍

8月22日～24日に、大分市で行なわれた全日本中学校陸上競技選手権大会に、9校から10名の選手が出場を果たしました。そして、男子100mで鈴木祐太（本郷）が3位、走高跳で榎原潤也（吉田方）が7位に入賞しました。

#### ☆第4位 豊川工業が高校駅伝12年連続出場

#### ☆第5位 トヨタが全日本実業団駅伝5位入賞

#### ☆第6位 豊橋陸上競技協会の生涯スポーツ優良団体受賞

#### ☆第7位 豊橋市が愛知県市町村対校駅伝初優勝

#### ☆第8位 蒲郡クラブが小学生クロカンリレー初出場

#### ☆第9位 夏目輝久が東三河支部長就任

#### ☆第10位 第1回穂の国・豊橋ハーフマラソン開催

（兵藤 重二）

## 専門委員会報告

### 総務委員会

#### 登録について

公認の陸上競技会等に審判員・競技者として参加するには、愛知陸協に登録し、日本陸連の登録会員になることが必要です。登録は、毎年更新するもので、期間は毎年4月1日より翌年3月31日までです。愛知陸協に登録された審判員・競技者は、愛知陸協が日本陸連に会員として申請して初めてその資格を得るものです。登録に関して、例年と若干内容が変わっております。愛知陸協発行の「登録要項」を参照し、手続きを早めにすませてください。日本選手権出場予定者は4月1日（木）までに登録をして下さい。愛知陸協から日本陸連への申請は、毎月7日までにします。なお、年度の登録申請手続きは、2010年3月1日より11月30日までに終了してください。平成21年度の登録会員数は、前年度を上まわり15,000人を越えました。また昨年より、中学生のクラブチーム登録は一般登録申込書を使用しております。登録申請先及び連絡先は、下記の担当者までお願いします。

#### 一般団体登録及び個人登録

名古屋	水野 隆夫	名 東 高
尾 張	原川 豪	美 和 高
西三河	山村 晃泰	刈 谷 高
東三河	山本 誠司	蒲 郡 東 高

#### 高校生登録

名古屋北	新美 準人	菊 華 高
名古屋南		
尾 張	浜子 記行	津 島 北 高
知 多	成田 稔	東 海 南 高
西三河	清水 文昭	岡 崎 工 業 高
東三河	加古 勇	豊 橋 商 業 高

#### 大学生登録

全 県	愛知陸上競技協会	052-249-4363
-----	----------	--------------

#### 中学生登録

名古屋	森 剛人	長 久 手 中
尾 張	長瀬 基延	古 知 野 中
西三河	細井 太郎	城 南 小
東三河	横内 隆之	石 巻 中

（稲垣 裕）

### 施設・用器具委員会

名古屋国際女子マラソン大会を無事終えました。ロードからトラックシーズンスタートに向けて、陸上競技場の施設用器具等の点検準備をよろしくお願いたします。

①全国検定会議と全国技術役員会議が、ルール修正対応と検定技術研修と情報交換を主として隔年で開催されています。今年は、2010年3月20・21日に全国技術役員会議が開催され、桑原・平川技術役員が参加しました。具体的な内容については、次回で報告します。

②3月7日（日）一日中雨天の中、岡崎総合運動場陸上競技場の検定を8時から16時まで、青木検定員と平川技

術役員で実施しました。今回から第3種の新条件（全天候舗装）に適合していないので、第4種に降格になりました。これで愛知県のクレーの公認競技場は、岡崎と蒲郡の2つのみとなりました。



③第3種愛知教育大学陸上競技場は、色々努力されましたが、財政上の問題で残念ながら公認継続が見送られ、廃止届けが1月8日に提出されました。財政が上向けば復活していただきたいものです。

(青木 実)

## 選手強化委員会

日本陸連はアスリート発掘プロジェクトと称して、今年度より全国47都道府県で毎年陸上教室を開催することが決定しました。

## ホープさん⑪

### 河崎梓穂璃さん（佐屋高校2年）

佐屋高校は農業科と家庭科の専門高校である。そのため、部活動よりも専門科目の実習が優先され、現在でも部活動自体が下火状態である。佐屋高校陸上部も、2年前までは部員が揃わず、ほぼ活動休止の状態であった。しかし、2年前に河崎梓穂璃をはじめとする5人の部員が入部してきたことで状況が変わった。

顧問として考えたのは、まずはこの5人の部員たちに陸上を好きになってほしいということである。どのような形でもいいので、「3年間、陸上部で活動して楽しかった」という気持ちを部員たちに持ってほしいと考えた。そこで、目標としたのは毎年11月に行われるエブリバディ・デカスロン大会である。この大会は陸上の様々な種目を、楽しみながら参加することができるからである。河崎に関しては、「初めての混成競技でどのくらいの点が取れるか」という期待を込めて出場させた。しかし、2種目で大きなミスを犯し、残念ながら入賞を逃した。順調にいけば、相当の点数が期待できた内容であった。

そこで、次年度に向けての構想の中で、「チーム河崎梓穂璃」を立ち上げた。エースである河崎梓穂璃を中心に置き、残りの部員たちが「河崎と一緒に記録を伸ばしていけるよう頑張ろう！」という意識を持って練習することにより、チーム全体の活性化が図れると考えたのである。このような形でのチーム経営が1年半続いているが、「なぜ河崎ばかりが優先されるのか」という不満などが噴出することは無かった。逆に、全員で彼女を盛り上げていこうという空気が部内に浸透している。彼女の成長がチームを活性化させ、逆にチームメイトたちの努力が彼女の成長を助けるということ、全員が理解しているからである。部活の雰囲気はいつも和やかで楽しいものであり、その雰囲気に誘われて新たに2名の部員も加入した。そのうちの1人が、ハンマー投の経験が2ヶ月ながらも、男子ハンマー投で新人戦県予選トップ8に入るなど、チーム全体としての成長も見られるようになった。少人数ではあるが、明るい雰囲気の中で練習できることが、彼女の記録向上に大きく関係していると思われる。

河崎自身についてだが、1年時の冬場には膝を故障し、満身に練習ができない時期があった。しかし、体幹の強化を中心に基礎体力の向上を図り、故障の回復後にはハードル、やり投を基盤として、混成競技の練習を積み上げた。愛知県選手権を見据えて調整を続けた結果、4334点をとって2位に入ることができた。夏休みには、競技者としての意識を更に高めるために、奈良インターハイを見学させた。そこで、県立岐阜商業の桐山さん、小松商業の山本さんらの活躍する姿を見て、目指すべきレベルが彼女の中で明確になったようである。そして、彼女にとって最大の勝負だったのが、昨年11月に行われたエブリバディ・デカスロン大会である。夏休み後は、常に「全国レベル」を意識させた状態で練習させており、彼女自身も昨年より自信を持って臨んだようである。この大会で4895点の愛知県高校新記録を樹立し、沖縄インターハイで表彰台を狙うという目標が、彼女の中で固まった。しかし、記録よりも彼女が試合後に「小松商業の山本さんに勝ちたい」と話したことが最も大きな進歩であった。冒頭の通り、佐屋高校陸上部は「陸上を楽しむ、好きになる」ということを目的として始まった部活である。彼女自身も、最初から秀でた選手というわけではなかった。しかし、その彼女が「勝ちたい」という気持ちを表現できるようになったことが、とても大きな成長ではないかを感じる。

現在、様々な宿舎や学校にお邪魔し、各種目の専門の先生方にご指導を受けながら練習に励んでいる。多くの先生方からのご協力があってこそ今の自分があるのだということ、彼女自身も理解しているようである。中でも、中京大学の本田先生には大変お世話になっており、この場をお借りしてお礼申し上げたい。中京大での練習に参加する中で、精神面でのたくましさ強化し、彼女自身の目標、「ライバルである山本さんとインターハイで優勝争いをする」ということを実現できるよう、今後も謙虚な気持ちを持ちながら、来年度に向けて努力を継続してもらいたいと思う。

(陸上部顧問 矢永 哲也)



佐屋高陸上部のメンバー（前列中央が河崎）

## U-18陸上教室のアンケート (2010年1月10日実施)

### 【コーチの感想】

- コンセプト、指導の方向性が分かりやすく、理解しやすかった。(障害)
- 多方向からの理論、接地イメージやウェーブハードリングはとても参考になった。(障害)
- 指導方法にいろいろなアレンジがされており、楽しい練習ができた。(障害)
- 説明がとてもシンプルであり、生徒がとても理解しやすい表現方法が多くあった。(障害)
- 高校生より下のランク (U-15、U-12) には口頭説明だけでは無理があるので、アシスタントの選手により模範指導が必要であると考えられる (障害)
- 女性指導者の特性なのか、表現方法がシンプルかつ繊細で理解しやすかった。(短距離)
- 当初の予定では午前は日本陸連、午後は愛知陸協の指導者が教室を行なう予定だったが、1日日本陸連にお任せして良かったと感じた。(短距離)
- 普段とは逆の発想や、違った視点からの指導方法が多々あり、とても勉強になった。(跳躍)
- 棒高跳選手にとっては、跳躍の基本的動作の練習が今まで少なかったので、とても良い経験になったと思う。(跳躍)
- もう少し時間的な余裕が欲しかった。通常1日半程度かかるであろう内容を、1日に詰め込んで指導されていたと思われる。できれば2日間ほしい。(跳躍)
- 普段使う練習道具を使い、いろんな練習方法を紹介してもらって、生徒も喜んでた。(投てき)
- 投てきは投てき練習もあるので、コーチの専門種目の選手だけを集めたりしているようである。そのような方法でよいかもしれない。(投てき)



跳躍指導



障害走指導



短距離走指導

### 【選手の感想】

- 技術指導の中で、「脛の角度を倒す」点が分かりやすく、普段の走りの中でもいい感覚を得ている。(短距離)
- 「首のつけ根から力を抜く」イメージは、イメージがしやすく、今でも意識している。(短距離)
- 台から飛び降りてスタートする練習方法は、自分にしっくりきていて、いい練習方法だと思った。(短距離)
- 色々な表現方法が分かりやすく、理解しやすかった。(短距離)
- 歩き方、ジョグ、基本姿勢などを理論的に教えていただき、身体をうまく使うための方法を理解できた。(中長距離)
- RPEで、自分の限界の数値を知ることができたと、目標を明確な数字で立てることができた。(中長距離)
- 大切な基本を学ぶことができた。今まで良いと思っていたことが間違っていたことを知ることができた。特にプライオの感覚が理解できた。(短距離)
- 自分の学校でやっているものと同じドリルが多くあり、自分がやってきたものが間違っていないことが確認できて良かった。(障害)
- ドリルの中で、今までは正面のみで良いと思っていたが、斜め向きのドリルなど新しい動きや感覚があり、新しい発見となった。(障害)



参加者全員で記念撮影

今年度本県はU-18(高校生)が割り振られ、高体連加盟校に2名枠と愛知陸協強化指定選手に参加要請をしました。参加校数94校、233選手が1月10日瑞穂陸上競技場に集い、日本陸連ジュニア強化部から派遣されたコーチより陸連ガイドラインによる指導を受けました。



U-18 陸上教室開講式

全国各県で巡回指導している陸連コーチから愛知の高校生選手、コーチのレベルの高さの講評をいただきましたが、これらは長年愛知陸協が陸上教室を独自の運営で培ってきた関係各位の賜物であると、この場をお借りしてお礼申し上げます。平成22年はU-15(中学生)対象で開催する予定です。

2009年度日本陸連アスレティック・アワードは、世界選手権で銅メダルを獲得した村上幸史(スズキ)でした。愛知陸協強化委員会選手派遣事業(国体、ジュニアオリンピック、都道府県対抗駅伝)での愛知アスレティック・アワードとして最優秀選手を独自に選出してみました。

- 最優秀選手：室伏由佳(ミズノ) 国体円盤投優勝  
 優秀選手：全国ジュニアオリンピック県選抜チーム  
 秋江洋志(AC一宮)、河室裕貴(弥富中)、掛川真(豊明栄中)、鈴木祐太(本郷中)  
 4×100mR 優勝(大会新)

- 最優秀新人賞：西山令(葵中2年)  
 全国ジュニアオリンピック1500m 優勝  
 都道府県対抗駅伝区間2位

年間通じて全ての競技会を対象とした最優秀選手は、伊澤菜々花(豊川高)でしょう。

日本ジュニア選手権5000m優勝、全国高校総体3000m優勝、全国高校女子駅伝1区区間賞、千葉国際クロカン優勝と素晴らしい成績でした。残念なことに愛知代表で出場した国体で5位であったことが、最優秀選手から外れた要因です。しかし、今後愛知代表から日本ジュニア代表になり、オリンピック代表の期待が持てる選手です。

2010年3月号誌上で掲載された陸上競技力ランキング(表)が愛知登録選手の競技力を示すものとして本年度のまとめとします。

陸上競技力ランキング

総合順位	5	400mR	1
男子順位	2	1600mR	2
女子順位	7	走高跳	3
100m	1	棒高跳	11
200m	1	走幅跳	18
400m	8	三段跳	7
800m	9	砲丸投	26
1500m	13	円盤投	9
5000m	9	ハンマー投	2
10000m	5	やり投	15
マラソン	7	十種／七種	2
3000mSC	4	国体	19
110mH 100mH	1	都道府県駅伝 女子	7
400mH	8	都道府県駅伝 男子	10
10000mW 5000mW	10	ジュニアオリンピック 男女総合	2

※数字は県別順位

(北村 肇)

記録委員会

記録は暦年(1月～12月)で整理します。各大会ごとにチェック確認し日本陸連へ公認申請をして受理されて初めて公認記録として認められます。

競技会ごとに整理していた記録を今年は8月に一度チェックし12月に入ると再度チェックし、高校担当者(野口一昭)の整理したランキングと照合します。日本陸連の記録集(日本・高校・中学の各部門100傑)・高校年鑑の資料の提供を優先しそれぞれの機関へ報告しています。次に愛知陸協の10傑表の作成に入ります。新しく塗り替えられた記録を書き換え、修正と訂正を繰り返しながら、記録集の原稿をプリントアウトします。さらにもう一度誤字脱字等のチェックをし、10傑の平均記録を入力し、印刷原稿としてプリントアウトし、2月中旬に印刷所へ発注します。3月1日には、各支部の登録担当者から加盟団体へ配布します。以上のように何度も念には念を入れチェックしていますが、それでも記録集ができあがってからもミス(収集洩れ)は無かったかと心配です。

平成22年度の記録申請の方法については、各支部へお願いするとともに次号に記します。

◎2009年(平成21年)に更新された記録

一般男子の部

- 800m 1.48.34 栗津良介(明治大)  
 スピッツエ競技会(スイス)7月16日  
 3000m 7.54.84 中尾勇生(トヨタ紡織)  
 国際競技大会(ベルギー)7月21日  
 5000m 13.28.16 中尾勇生(トヨタ紡織)  
 ナイトオブアスレティックス(ベルギー)7月18日  
 10000m 27.48.71 中尾勇生(トヨタ紡織)  
 ディスタンスチャレンジ(中国)6月10日  
 20km 58.26 尾田賢典(トヨタ自動車)  
 全日本実業団ハーフ(途中)(山口)3月15日  
 4×100mR 39.77 中京大  
 (加藤広大・森 喜勲・服部辰也・田口博崇)  
 東海学生対校選手権大会(瑞穂)5月15日  
 4×400mR 3.09.21 愛知教育大  
 (日比野陽平・東 哲久・磯部 慶・中野弘幸)  
 西日本学生対校選手権大会(丸亀)7月12日

一般女子の部(タイ記録)

- 100m 11.75 河原崎可央里(日本体育大)  
 日本陸上選手権大会(広島広域)6月27日

高校男子の部

- 4×100mR 40.55 名古屋  
 (古池勁太・三浦豊成・中村健太・渡辺将志)  
 愛知選手権名古屋支部予選(瑞穂)6月6日  
 ハンマー投(6.0kg) 61.97 一柳英之(名古屋)  
 東海高等学校対校選手権大会(伊勢)6月19日

高校女子の部

- 3000m 9.08.44 伊澤菜々花(豊川)  
 静岡長距離強化競技会(小笠山)9月6日  
 3000mSC 11.30.08 加藤かな代(岡崎城西)  
 東海選手権大会(長良川)8月29日

名岐駅伝いまむかし⑩

戦前大会の回顧〈2〉

第1・2回大会は、参加資格に関係なくレースが行なわれ順位が決められたが、第1回大会に参加した中学はマラソン王と言われた日比野寛が創設した名古屋育英商1校（順位は14チーム中7位）のみであった。第2回大会は前号（注参照）で記したように、中学校の申し込み4校のうち入賞した名古屋育英商（3位）と本巢中（10位）以外は参加の有無が判明できない。

当初は一般青年の部を含めて、中学の部でも申し込みをしながら当日棄権した学校（チーム）が少なくない。理由は当時の交通事情や大会が祝日である2月11日の紀元節と重なっていたこと等が考えられる。例えば「第8回大会に実力的にも大会制覇を目指していた岐阜中は学校から木曽川大橋までの往復を毎日走ってトレーニングを積み重ねており、時には一宮までの約20キロを走ることもあったが、帰りは名鉄電車に裸のまま無料で乗せてもらって帰校したこともある」という。しかし、日華事変の勃発と共にますます軍国主義思想が学校まで浸透し、申し込みをしたものの、校長の「学校行事のある紀元節に欠席して名岐駅伝に参加する事はまかりならぬ」という方針で急遽涙をのんで参加を取り止めざるを得なかった。（現愛知陸協顧問・翠忠明談\*）

以下、13回の大会を参加校の数、県別参加校数、優勝校等から振り返ってみよう。

第2回大会を除く12回の大会に参加した学校は42校（愛知31、岐阜9、三重2。ただし三重高等農林、岐阜農林、八高を含む）であるが、表に見るように延べ133校、複数参加のチームを入れると148チームが参加している。参考までに当時の学校数を愛知県についてみると、昭和10年度までは中学19校（公立14、私立5）、実業学校39校（公立25、私立15）、昭和16年度でも中学22校、実業学校75校であり、中学校は3増に過ぎない。（出典：〈学校数調査〉愛知県統計書）

県別では、上記のように愛知が圧倒的に多いが、第11回（昭和16年）大会までに愛知県内の公立中学の参加は愛知一中と明倫中の2校に過ぎず、尾張、東・西三河、知多地域からの参加は12・13回大会に集中している。また、三重からは三重高等農林を除けば第13回大会参加の上野中の1校のみで静岡からの参加はなかった。

学校別に参加回数を見ると名古屋商が11回で最も多く、次いで、東邦商9回、中津商・名古屋第三商・名古屋育英商（金城商含む）\*各8回、中京商・愛知第一師範各6回、本巢中\*・西尾蚕糸（実業）各5回。以下、4回が3校、3回が7校、2回が8校、1回のみが14校であるが、2回以下の学校は12・13回大会に集中している（\*：この2校については第2回大会参加を含む）。

次に、優勝回数を第3回大会以降の11回の大会についてみると、三重高等農林の3回を除けば、1位は東邦商の3回、以下、中京商2回と名古屋育英商・西尾蚕糸（実業）・中津商の各1回であるが、中津商の場合第6回大会の初参加から13回大会まで連続3位以内入賞を果たすなど、その健闘が注目される。

このように中学校では参加42校中半数を超える22校が2回以下の参加であり、優勝校が5校に過ぎないことを考えると、戦前の名岐駅伝「中学の部」は主に名古屋市内の公私立実業学校、とりわけ商業学校を中心に熱戦が展開され、優勝争いが演じられたとみてよいだろう。

なお、名岐駅伝の運営に尽力した役員（多くは参加校の教員が多かった）や選手の多くは、戦後当地域の陸上競技界の発展に中心的役割を果たしたが、このことについては稿を改めて取り上げてみたい。



\*翠忠明：1921生。昭和14年全国中等学校陸上競技選手権大会（一部）800m優勝。復員後名古屋市役所に勤務しながら、愛知陸協の役員として戦後の混乱期に瑞穂競技場で開催された「第1回全国IH」（昭和23年）、「愛知国体」（同25年）、「第35回日本選手権」（同26年）に尽力した。また、24年以降、愛知陸協常務理事・副理事長・東海陸協理事長や日本陸上競技連盟の理事等を永年勤め、その功績に対して昭和39年「秩父宮章」、昭和52年には「日本陸上競技連盟功労章」を受章。

訂正：「広報13号」p5第10回大会（中学）⑤中津商→中津商B、また、同、第11回大会（中学）東海中の順位を⑬→⑩に訂正。

付記：第8回～13回大会までの執筆にあたり、名古屋市立鶴舞中央図書館のマイクロフィルムに収録されている「新愛知新聞」及び「中日新聞」の記事・写真を参考・引用・転載した。記して感謝の意を表します。

\* i 「陸協広報」（第15号）参照

\* ii 本大会より「学生の部」→「中等学校部」となり、大学高専等は「一般青年部」となる。

\* iii ○の中の数字は一団体複数チームの参加を示す。例えば「133⑮」は、133校参加し、更に15チームが参加したことを意味するが、この一校（団体）複数チームの参加数は「一般青年部」に比して多い。このことが参加チーム数の増加の一因となっており、しばしば競技運営上支障を来たすこともあり、第11回大会から一団体1チームに制限された主因であろう。

（西垣 完彦）

表 大会別・県別の参加校・チーム数の推移

大会	(年)	愛知	岐阜	三重	計	
1	(5)	1	—	—	1	
2	(7)	1	3	—	4	* i
3	(8)	5①	4	1	10①	
4	(9)	3①	3①	1	7②	
5	(10)	6③	1	1	8③	
6	(11)	6	3	1	10	
7	(12)	6①	1	—	7①	
8	(13)	10②	1①	—	11③	* ii
9	(14)	10	2①	—	12①	
10	(15)	6①	2③	—	8④	
11	(16)	10	1	—	11	
12	(17)	17	3	—	20	
13	(18)	21	6	1	28	
計		101⑨	27⑥	5	133⑮	* iii



やり投 47.18 高塚裕子(名城大附)  
 全国高等学校対校選手権大会(奈良)7月29日  
 七種競技 4895 河崎梓穂璃(佐屋)  
 (14.82-1.55-9.43-25.81:5.33-39.16-2.27.20)  
 エブリバディデカスロン in 愛知(知多)11月8日

#### ジュニア男子の部

ハンマー投(6.0kg) 61.97 一柳英之(名古屋高)  
 東海高等学校対校選手権大会(伊勢)6月19日  
 十種競技 7058 中村明彦(中京大)  
 (10.84-6.74-9.56-2.02-48.03:14.82-25.18-4.10-39.70-4.08.24)  
 日本学生対校(国立)9月5日

#### 中学男子の部

100m 10.81 河室裕貴(弥富)  
 全日本中学校選手権大会(大分)8月24日  
 200m 21.37 河室裕貴(弥富)  
 全日本中学校選手権大会(大分)8月22日  
 1500m 4.03.30 西山 令(葵)  
 全日本中学校選手権大会(大分)8月24日  
 4×100mR 42.35 愛知選抜  
 (秋江洋志・河室裕貴・掛川 真・鈴木祐太)  
 ジュニアオリンピック(日産スタジアム)10月25日  
 4×100mR(単独)43.53 名古屋東海  
 (時田遼嗣・田中宏昌・岩田亘平・高橋周治)  
 全日本中学校選手権大会(大分)8月24日  
 円盤投 52.81 小出拓実(河和)  
 愛知ジュニア(瑞穂)8月30日  
 110mH 14.29(タイ)角田涼一(豊正)  
 全日本中学校選手権大会(大分)8月24日

#### 中学女子の部

400m 59.20 山田晴帆(千種)  
 スプリントトライアスロン(知多)11月8日  
 100mH 14.43 谷 優奈(保見)  
 愛知県中学校総合体育大会(瑞穂)7月30日  
 100mYH 14.23 谷 優奈(保見)  
 ジュニアオリンピック(日産スタジアム)10月23日  
 4×100mR(単独)48.68 長良  
 (馬場桃子・松井香保里・三木麻由香・森 佑紀那)  
 東海中学校総合体育大会(長良川)8月11日  
 100+200+300+400mR(スウェーデンリレー)2.25.08 千種  
 (水野萌香・早川有香・久保坂優子・山田晴帆)  
 レディース陸上(松江)11月1日  
 棒高跳 2.90 松下琴子(千種)  
 国体選手選考春季選抜(瑞穂)4月19日  
 (岡田 武彦)

### 女性委員会

平成21年度を振り返って

平成21年度、女性委員会だけで活躍することは、ほとんどありませんでした。女性委員会のメンバーは、強化・審判・競技情報・総務等、各委員会の中で活動することが多くなりました。このうち2委員会の中での活動について報告します。

#### ◎強化委員会

現在強化委員会では、佐藤・谷嵩・舟木の3名がコーチとして活動をしています。それぞれが、自らの経験や知識をもとに選手の指導にあたり、女性らしい感性や考えで意見を言っています。私が合宿等をのぞきに行くと、3人の「頑張っていますよ」と張り切った声が聞かれ、男性コーチ陣からも「居てもらわなくてはならない存在です」と言われます。女性と男性のコーチが協力して活動しているのがよく分かります。数年前では、とても考えられない状況です。女性コーチたちには、今後もますます活躍をしていただき、また優秀な後継者を育て、この状況が途切れることなく続いてくれるよう願っています。

#### ◎審判員の確保と育成

第26回レディース陸上競技大会(平成20年度)を開催するにあたり、女性審判員を増やそうと審判委員会に働きかけをして、それまで年1回の審判資格取得講習会を平成19年度より年2回開催していただきました。これにより、女性だけでなく男性も合わせて、審判員数が激増しました。これには思わぬ効果があり、審判委員長から「とても良かった」との言葉をいただきました。今年度については、当初より審判委員長とよく相談をし、また審判委員会と女性委員会と学連の合同会議を開催する中で意見の交換をしました。新たに資格を取得した方については、知識と技術の習得の機会が必要と考え、その講習会の開催を審判委員会にお願いしました。そして7月に施設用器具委員会と審判委員会の主催で講習会が開催されました。講習会は厳しい日程でしたが、皆さんが熱心に受講され修了証をいただき喜んでいました。今後、さらにこのような講習の機会を与えていただけるようお願いしたいと考えています。

また審判確保については、審判資格を持っているのに現在は審判活動をしていない方がたくさんいます。今年度は、この方たちにも働きかけをしました。女性については、結婚・出産・育児を経て、少し生活の中で時間にゆとりの出来た、アラフォー世代の方を中心に呼びかけました。若い頃を懐かしみ、快く戻って来てくれた方がいました。また今年度陸協の役員改選があり、体制が変わったことから「これを機会にまた一緒にやりませんか」と、男性の方にもついでに働きかけをしました。「復帰します」との快い返事がいくつか返ってきました。これも、審判委員長や理事長にとっても喜んでいただけました。

平成22年度以降、ジュニア・ユース陸上競技選手権大会や日・中・韓ジュニア競技会や全日本中学選手権大会等の全国大会が続きます。男性・女性・新人やベテランの審判員が協力してこれらの大会を運営し、そのノウハウを次の世代へ繋いで行ければ良いと考えます。4月、大会の審判に皆さんが出てきてくださり、活気のある運営が出来るのを楽しみにしています。(脇田 千鶴)

### 年誌資料・広報委員会

皆さん方の絶大なるご支援とご協力により、平成21年度を終えることができました。この一年間、原稿をお寄せいただきました皆さん方に深く感謝申し上げます。委員会としては、少しでも読んでいただける広報誌を目指し、「名岐駅伝いまむかし」「ホープさん」「クラブ紹介」「学校紹介」を掲載してきました。また、今年度は、新しく「競

技場めぐり」として、知多陸上競技場を取り上げました。競技場が多くの方々のご努力で完成したことがよくわかりました。情報発信源として、この『愛知陸協広報』が読者の皆さま方の「愛知陸上競技協会の活動の様子をより知っていただくこと」につながれば幸いです。

14号から始まったこの一年。内容はいかがだったでしょうか。これからもよりよい広報誌づくりを考えていきたいと思っています。ご意見ご要望をお待ちしています。

下記は14～17号の概要です。

平成21年度に発行した「愛知陸協広報」14～17号

号数	発行月日 (ページ数)	編集内容
「愛知陸協広報」14号	6/30 (p14)	<ul style="list-style-type: none"> <li>会長及び新理事長のことば (21年度を迎えて)</li> <li>旧理事長あいさつ (退任にあたって思うこと)</li> <li>4支部の活動状況及び今年度の活動方針</li> <li>専門委員会報告及び今年度の活動方針</li> <li>関係団体の活動状況</li> <li>競技会報告 (国体選考強化・普及、国体選考春季選抜、東海学生、県高校総体、全日本マスターズ駅伝)</li> <li>理事会等会議報告</li> <li>愛知陸協20年度収支決算報告</li> <li>その他                         <ul style="list-style-type: none"> <li>名岐駅伝いまむかし⑧</li> <li>ホープさん⑧ 谷 優奈 (保見中)</li> <li>クラブ紹介⑨ YOUKI 陸上クラブ</li> <li>学校紹介④ 中京大中京高</li> </ul> </li> </ul>
「愛知陸協広報」15号	9/30 (p20)	<p>がんばる高校生 (優勝者名古屋高チーム・伊澤菜々花)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理事長のことば (上半期を振り返って)</li> <li>4支部の活動状況</li> <li>専門委員会報告</li> <li>関係団体の活動状況</li> <li>競技会報告 (県小学生リレー、東海混成兼愛知混成、県レディース、県選手権、県中通信、県・東海中学総体、東海・全国高校総体・全国高校定通他)</li> <li>理事会等会議報告</li> <li>大分国体選手団一覽表</li> <li>全国高校総体参戦記 in 奈良</li> <li>慶弔報告 (協会会長表彰: 森本治郎、神田邦雄、花田美明、近藤修一、植田准次、長谷川欽市、新美精三、石田美智枝 訃報: 浜島聖治、飛田善訓)</li> <li>その他                         <ul style="list-style-type: none"> <li>ホープさん⑨ 林 雅人 (一宮高)</li> <li>クラブ紹介⑩ へきなん陸上クラブ</li> <li>学校紹介⑤ 古知野中</li> <li>陸上競技場めぐり「知多運動公園陸上競技場の歴史①」</li> </ul> </li> </ul>
「愛知陸協広報」16号	1/1 (p16)	<p>陸上王国愛知復活!!</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理事長のことば&lt;新年を迎えて&gt;</li> <li>4支部の活動状況</li> <li>専門委員会報告</li> <li>関係団体の活動状況</li> <li>競技会報告 (県小学生、東海高校</li> </ul>

		<p>新人、全国スポレク、駅伝&lt;県中学、県・東海高校、市町村対抗&gt;、ジュニアオリンピック、愛知駅伝、名古屋ハーフ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>競技会参戦記 (新潟国体)</li> <li>新潟国体県選手団競技成績一覽表</li> <li>慶弔報告 (叙勲: 梅村清弘&lt;私学振興功労&gt;秩父宮章: 水野 久 平沼亮三章: 若杉鋼洋 河野謙三章: 秋田明憲 春日弘章: 中村明彦 河野一郎章: 石黒大介)</li> <li>その他                         <ul style="list-style-type: none"> <li>名岐駅伝いまむかし⑨</li> <li>ホープさん⑩ 高塚裕子 (名城大附高)</li> <li>学校紹介⑥ 長良中</li> <li>陸上競技場めぐり「知多運動公園陸上競技場の歴史②」</li> </ul> </li> </ul>
「愛知陸協広報」17号	3/25 (p16)	<ul style="list-style-type: none"> <li>理事長のことば&lt;21年度を振り返って&gt;</li> <li>4支部の活動報告</li> <li>専門委員会報告</li> <li>関係団体の活動報告</li> <li>競技会報告 (全国高校駅伝、駅伝カーニバル、読売犬山ハーフ、女子マラソン他)</li> <li>理事会等会議報告</li> <li>慶弔報告 (県体協表彰 特別優秀選手: 室伏広治 体育功労者: 大島 修、大津賀賢、八田定丸、田口 茂、小林暎治、蟹江賢治、白井公子、石田美智枝 優秀選手: 室伏広治、中田有紀、室伏由佳、森 安彦、伊澤菜花、鈴木美乃里、安藤友香、下村環加、ワイナイナ・ムルズ、鷲見咲也加、山田和佳奈、福沢志穂、古池勁太、三浦豊成、中村健太、渡辺将志、酒谷昇呉、宮 匠、西山 令、岩崎 聖、秋江洋志、河室裕貴、掛川 真、鈴木祐太、井面拓也、伊藤 勉)</li> <li>その他                         <ul style="list-style-type: none"> <li>名岐駅伝いまむかし⑩</li> <li>ホープさん⑪ 河崎梓穂璃 (佐屋高)</li> <li>クラブ紹介⑪ 布袋陸上クラブ</li> <li>学校紹介⑦ 沓掛中学校</li> </ul> </li> </ul>

(外山 修)

## 関係団体報告

### 小学生友の会

#### 小学生友の会の活動

1月 小学生クラブチーム指導者実技講習会・連絡協議会  
(1) 講義と実技「楽しく取り組ませる練習メニューと練習器具」愛知陸協 山内正人 普及委員会委員長

- ① 指導用器具の種類が多くなったので、効果的に利用しよう。
- ② クラブ員の潜在能力は高いので、もっていき方で、大きな成果を得られる。
- ③ ゲーム化によって、やる気を引き出すことができる。
- ④ 用器具の不規則並べが、高い効果をもたらす。

## 学校紹介⑦ 沓掛中学校 全国中学校駅伝男女アベック県代表



ラダートレーニング

今回は、県中学駅伝で女子が5連覇、男子も優勝して共に全国中学校駅伝の代表となった沓掛中学校を訪問しました。沓掛中学校がここまでの成績を収めてきたのには必ずそれだけの理由があるはずだと思って取材をしましたが、やはり結果を残すだけの理由がありました。顧問の栗林正浩先生への取材と練習の様子から掴むことができたものを、ご報告します。

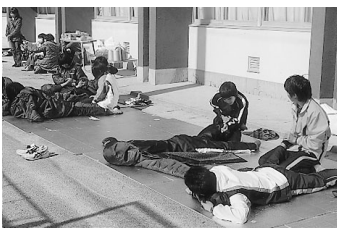
一つめは、徹底したジョッグ中心の練習です。沓掛中学校ではレベティショントレーニングに類する追い込んだ練習はほとんどやっていないということです。試合前の調整練習で1000mを走ることはあるけれども、それも、400m-200m-400mに区切ったような形で行なっているので、誰も1000mの自己記録を知らないのではないかと栗林先生はおっしゃっていました。ジョッグはいわゆる有酸素運動であり、これを徹底することで、身体に余分なものをつけさせないのがその考え方です。多くの場合スピードは個人にまかしてあるとのことでした（そのためか練習の最後に、駅伝メンバー全員が腕時計をしていることに気づきました）が、設定タイムが遅い時も速い時も“一定のフォームを絶対に崩さないで走る”ことを徹底しているのだそうです。この徹底したジョッグ中心の練習が、体を作るとともに効率のよいフォーム作りに役立っているのでしょう。

練習内容ではもう一つ、おやっと思わせられるものがありました。それはラダートレーニングです。練習場所にラダーが置かれていましたので、短距離ブロックが使うものだとばかり思っていたのですが、違っていました。駅伝メンバーのためのものだったのです。栗林先生は、20分ほどのラダートレーニングの主眼は足首の強化にあるのだとおっしゃっていました。しっかりとした下半身がスピードを生むのでしょう。ジャンプ系と言ってもいいような内容を含んだこのトレーニングは練習の最初に行なわれていましたが、お聞きしてみると、毎日やっているのだそうです。

三つめは練習環境です。学校から走って10分程度の所に洲原公園があり、ここが絶好の練習場所になっているのです。1周2kmほどのコースには坂道や階段、じゃり道があり、いわゆるタフなコースとなっています。洲原神社の鳥居までの150mほどの上り坂は勾配がきつく、自然と脚力を高めてくれているように思われました。中学生とは思われないようなしっかりした脚の筋肉には目を見張るものがありましたから。栗林先生は、余分なものがついていないから筋肉だけが浮き立って見えるんですよとおっしゃっていましたが、私はこのタフなコースの存在が大きいのだと思いました。また神社から洲原池に向かっては下り坂になっているのですが、栗林先生は全国大会のクロスカントリーコースに対応した最適の練習コースだとおっしゃっていました。また、学校周辺の住宅地域にもアップダウンのコースがいくつかあるのだそうです。



絶好の練習環境



マッサージによるケア

四つめには、徹底した練習後のケアを挙げることができます。公園への行き帰りを含めた1時間程度のトレーニングの後、体幹トレーニングを中心とした補強、マッサージと続いたのですが、マッサージには2人組で1人あたり20分程の時間が割かれていました。訪問したのが土曜日で、十分に時間をとれるからなのかとお尋ねしたところ、平日でも時間の許す限りマッサージを行なっているとのことでした。また、地域にある施療院にもよく通っているそうです。生徒たちに聞いてみますと、週2回のペースで通っている人もいました。中学生が通うのですからもちろん保険がきくところなのですが、故障してから治療のために通うのではなく、ちょっと疲れたなという時に

予防するために通うのだそうです。どうもこの考えは、メンバー全員に共通のものようでした。故障して走れない期間があれば、強くはなれません。無事これ名馬なり、継続は力なり、これらの言葉はまさに真実です。その他にはとお聞きしてみると、選手の自主性が挙げられるとのことでした。テスト週間になると部活が休みになりますが、そんな時に家の周りを1人でジョッグしている生徒を何人か栗林先生は見かけているのだそうです。そんな指示などしたことはないのと笑っておられました。また日曜日は一週間に一度の休みなのですが、その休みに近くの刈谷市の競技場などで自主練習をしている生徒もいるのだそうです。

3年生が抜けて来年度のチーム構成がどうなるかはまだ分かりませんが、特に全国大会で11位に入った女子には、1年生に鷺見梓紗選手、下村怜伽選手の2枚看板がいます。中日新聞の記事に「1年生コンビけん引」と賞讃された二人です。とりわけ鷺見選手は、女子3000mの中学1年生歴代1位の記録を持っています。この二人にけん引される他のメンバーが2年生を中心にしっかりと脇を固めているのですから、今年度以上の活躍が期待できます。男子にも全国大会区間6位の松林大貴選手（2年生）がいます。マッサージの様子を見ていると、男子も“和”のチームという気がしました。伝統となっている“強さの秘訣”で、男女ともに県代表、そして全国大会での入賞を目指してほしいものです。沓掛中学校の活躍が県内の中学校全体をけん引することにもなりますので、その活躍が大いに期待されます。



栗林先生への取材

（取材・文責 大西 敏功）

## (2) 連絡協議・依頼

- ① 友の会ルールの改訂…走高跳の跳び方・フォームについて
- ・リレー競走大会、選手権大会に於いては、跳び方を限定する。
  - 可…はさみ跳（正面跳び）
  - 不可…背面跳・ベリーロール
  - 理由 ア 中学→高校への一貫指導を考慮すると、はさみ跳に習熟させておくことが望ましい。
  - イ 着地用のマットの広さや厚さが十分でないにもかかわらず、練習をしているケースがあり、事故の可能性がある。
- ② リレー競走大会・選手権大会について
- ア 選手ホールへの父母の立ち入りを制限することを検討する。
  - イ 「参加料等・払込金受領証」のコピーを「申込関連文書」に貼付することを守ってほしい——事前振込み厳守。
  - ウ 種目の変更…ソフトボール投→ボルテックス投  
平成23年度から予定。
  - エ 補助役員（2名）を今後もお願いしたい。
  - オ 観覧マナーを各チームで指導していただきたい。
  - カ 女子に対する〔盗撮〕防止対策を検討していきたい。
  - キ 友の会の会費の振込み先変更  
大矢新吾口座→今後・愛知陸協口座。
- ③参加者 63人（指導者 53人）

## 競技会の成績

12月	愛知県小学生長距離走記録会	豊橋市営陸上競技場
	1500m×6人の合計タイム	
	優勝 蒲郡クラブ	31.03.88
	2位 田原陸上クラブ A	31.05.01
	3位 岡崎 JAC	31.17.67
	4位 豊橋陸上クラブ A	32.00.73
	5位 JAC とよあけ A	32.12.67
	6位 へきなん陸上クラブ	32.15.09
	7位 田原陸上クラブ B	32.25.67
	8位 知立ジュニア	34.12.81

優勝した蒲郡クラブが「日清食品カップ」全国小学生クロスカントリーリレー研修大会（3月20・21日 万博記念公園）への出場を決めた…初出場。

（大矢 新吾・村上 叡治）

## 中小体連

この一年を振り返って

この一年の中体連の活動を振り返ってみて、「中学生パワー」の大きな躍進を感じました。7月の県通信、県総体での大会新記録の連発を目の当たりにし、その勢いの一端を感じました。さらにそれが爆発したのが、8月に行なわれた全日本中学校陸上競技選手権大会でした。男子42名、女子27名、計69名という、ここ最近では最も数の多い選手団で臨みました。ただ参加人数が多いだけでなく、男子入賞数9、女子入賞数4、樹立された県中学新記録（タイ記録含む）数6というたいへんハイレベルな戦いをする事ができました。その中でもとりわけ強さが際立ったのは、河室裕貴選手（弥富）です。200m準決勝では、21.37

（+0.6）という驚異的な大会新記録を叩きだし、あの為末大選手の持つ中学日本記録にあと0.01と迫りました。また、4×100mRでは、男子の東海中学校、女子の長良中学校がともに4位入賞を果たし、強い「チーム愛知」を強く印象づけることができました。

10月に開催されたジュニアオリンピックでも、その勢いは止まることなく、男子入賞数11、女子入賞数8、うち優勝3、樹立された大会新記録2という、たいへん素晴らしい結果を収めることができました。特にB1500mにおいて優勝した西山令選手（葵）、C100mHにおいて大会新記録で優勝した岩崎聖選手（東海）のパフォーマンスは群を抜いており、他を全く引き寄せない強さで圧勝しました。また、県選抜チームで臨んだリレーでは、男子が大会新記録を樹立して優勝、女子は2位という、チーム愛知としてこれ以上ない結果を残すことができました。夏の全中でのリレー男女入賞、またインターハイでの名古屋高校、中京大中京高校のワンツーフイニッシュに続き、「リレーの愛知」を全国に強く印象づけることができました。

この強さの原動力は何であるかと分析すると、以下の点にあると考えます。

## ① 小学生の強化・普及の成果

現在、中学で活躍する選手の中に、小学生時にクラブチームで活躍していた選手が多数含まれています。小学生から陸上競技に親しめる環境が整っていることが、現在の中学生パワーの源であると考えます。小学生の指導に携わる方々のご尽力に本当に頭が下がります。

## ② 強化事業の成果

他県の様子と比べ、愛知は強化の縦の連携がとれているように思います。近年、国体強化合宿にたくさんの中学生を参加させていただいておりますが、高校生のトップ選手と練習する中で、さらに一段上の心技体を磨くことができます。今、中学生で「あいち」のユニフォーム、ジャージを目標とする選手が増えたのも、この強化事業が成功している証拠だと肌で感じます。

## ③ 中学生指導者の努力

日々の生徒指導に追われ、何かと忙しい毎日ですが、少しでもグラウンドに立ち、地道に指導を続けてきた先生方の成果が実を結んでいると感じます。愛知の中学生指導者はたいへん研究熱心であり、また他校の選手を指導することに対してオープンです。「愛知のためなら…」と言って、こちらの無理を聞いてくださる先生方に支えられていると強く感じます。

2010シーズン、愛知の中学生はさらに大きく躍進し、全国の舞台で大活躍すると約束します！中体連への応援、よろしくお祈りします。（久米 裕朗）

## 高体連

高体連陸上競技部の活動について

21年度は昨年度に引き続き全国高校総体に100名を超える選手が参加し、なかでも男子4×100mリレーでは名古屋高校と中京大中京高校が愛知県勢同士で優勝争いを繰り広げたり、女子では豊川の伊澤菜々花選手が完璧なレースで優勝する等すばらしい活躍が見られました。また、全国高校駅伝では、豊川的女子チームが2年連続優勝すると

いうすばらしい活躍を見せてくれました。

22年度の全国高校総体は、「晴天届く君の風みなぎる闘志が夏に輝く」のスローガンのもと、沖縄県で開催されます。ここでもまた、多くの愛知県の選手が活躍してくれるものと期待しております。

22年度の競技会日程がほぼまとまりましたが、そのうち高体連関係だけをピックアップしてお知らせします。(紙面の都合で県大会以上のものだけ掲載させていただきます。)

#### ○高校総体関係

- ・県総体 5月21日(金)・22日(土)・23日(日) 瑞穂
- ・東海総体 6月18日(金)・19日(土)・20日(日) 瑞穂
- ・全国総体 7月29日(木)～8月2日(月) 沖縄県(沖縄市)

#### ○新人戦関係

- ・県新人 9月25日(土)・26日(日) 瑞穂
- ・東海新人 10月23日(土)・24日(日) 静岡県(草薙)

#### ○駅伝関係

- ・県駅伝 11月7日(日) 知多市
- ・東海駅伝 11月28日(日) 知多市
- ・全国駅伝 12月26日(日) 京都市

※22年度は、東海高校総体と東海高校駅伝が4年に1回の持ち回りにより愛知県開催となります。特に東海総体は、全国総体出場にかかる非常に重要な大会となります。大会運営もミスのないように、万全の体制で行なわなければなりません。役員及び補助員の委嘱でご無理をお願いすることと思いますが、ご理解ご協力よろしくお願いいたします。(大島 修)

## 高体連定通部

「21年度を振り返って」

県総体開催が近づくと従って新型インフルエンザの対応が心配されたが、幸い影響はなかった。参加状況は選手数・校数は例年通りであったが、この状況を維持していくことが現在の定通には重要であると捉えている。総合成績で男子は科技高刈谷、女子は豊橋が連続優勝を伸ばした。今年度より2000m障害が3000m障害となったが定通の選手には厳しい種目である。

全国大会出場者の合同練習会は、ウェーブスタジアム刈谷で行なった。スタッフが少なく技術指導が十分とはいかないので、今後改善を図っていきたい。

全国大会は、関係者の予想を上回る活躍を見せてくれた。特に女子の活躍が目立ち、トラックの部では優勝を飾った。男女のリレー3種目は、コーチの指導で上位入賞を果たし、国立競技場を沸かせた。総合成績で今年度も準優勝し、常に上位入賞の愛知であるが、来年度の選手層を見るとこれまでにない大変厳しい状況にある。

平成22年1月30日に、全国代表者会議が都立一橋高校で行なわれ、来年度の全国大会の要項案が示され、競技日程の一部変更と参加費の値上げが提案された。補助金の問題など財政面で厳しい状況が続いている。

2月18日に待望の記念誌が発刊された。全国大会へ愛知が参加して42年が経過し、平成22年度に45回を迎える。この間、男女総合で19回の優勝を飾っている。その

足跡をまとめたものである。記録と共に、これまで定通陸上にご尽力された関係者の熱き思いも込められ完成に至った。(松橋 政人)

## 学連

平成21年度の東海学連ロード事業は、10月12日の出雲全日本大学選抜駅伝競走をもって学生駅伝のシーズンが始まり、全日本大学男・女駅伝対校選手権大会、12月の全日本大学女子選抜駅伝競走・東海学生男・女駅伝競走大会の終了で、6つの学生駅伝大会が終了した。ここで、これらの駅伝と、その周辺について述べたい。

#### 秩父宮賜杯第36回全日本大学駅伝対校選手権大会

昭和45年(1970年)に始まったこの大会は、41回目を迎えた。熱田神宮-伊勢神宮のコースは、その昔東海学連の駅伝コースで、隔年スタートを交代させて逆方向に走っていたコースである。全日本としてのこの駅伝の創設に当たってはいろいろ難関の多い出発ではあったが、41回の回を重ね、すっかり伝統ある駅伝になってきたことはよろこばしい。現在では、8区間106.8km、平均13.35km、最長19.7kmである。(当初20kmと23kmとがあった)。出雲の駅伝に比べると、距離的に駅伝らしい駅伝といえようか。関東学連にとっては箱根駅伝への前哨戦として最適な順序構成となっている。日大が4年ぶり3度目の優勝を飾った。地元の中京大、名大など全国8地区の代表25校に、オープン参加の東海学連選抜を加えた26チームが参加。2大会連続出場の中京大は前半の遅れがひびき19位、5大会ぶりに復活した名大は18位、東海学連選抜は16位相当の結果であった。

#### 第27回全日本大学女子駅伝対校選手権大会

昭和58年(1983年)世界各国から、選手を招いて大阪において開催されていた駅伝も22回目を迎えて、大阪における最後の大会となった。外国招待のためか、首を傾げたくなるような派手な催しが開催されたり、学生には贅沢な大会であったが、時代の趨勢を反映して、外国選手の招待を止め、地味で、学生の大会らしい落ち着きを取り戻せてよろこばしいとよろこんでいたが、スポンサーの都合から、以後大阪での開催は不可能になった。当然、大学女子駅伝対校選手権をなくすわけにはいかないので、数年間は学連の経費持ち出しの形で仙台市で存続している。本大会は、仏教大が驚異的な大会新記録で初優勝した。4連覇を狙った立命館大は大会新ながら2位、名城大は3位、中京大17位の結果であった。

#### 第7回全日本大学女子選抜駅伝競走

昨年に引き続き、6区間・30.67kmを大学単独チーム(12大学)、地区学連選抜チーム(8チーム)の20チームが暮れにつくばで競い合った。東海関連の成績は名城大が3位を獲得、東海学連選抜チームは17位と昨年より順位を下げた。

#### 第71回(第3回)東海学生男・女駅伝対校選手権大会

12月6日に行なわれた標記大会は、男子24チーム女子12チーム(オープン参加を含む)参加の下、知多半島にて盛況うち無事終了することができた。男子については過去

最多の出場数で、中京大Aが5年ぶり39回目の優勝、女子は名城大Aが3年連続3回目の優勝を果たした。今大会でも前回と同様に単独校で出場できない選手のために混成チームを編成した。特に女子においては安定した成績で総合3位相当となる結果であった。結果の詳細は、東海学連 <http://gold.jaic.org/jaic/tgrr/index.ht> を参照ください。

本大会が無事終了したのも、愛知陸協の皆様方のご声援、ご協力の賜物であります。また、これをもちまして、当連盟主催の競技会をすべて終了したことを報告するとともに来年度以降につきましても、これまでと変わらぬご指導、ご鞭撻の程、よろしく申し上げます。

#### 平成22年度事業計画並びに学生役員

最後に、平成22年度の東海学生陸上競技連盟事業日程・新学生役員は下記の通り、2月の東海学連評議員会において承認されました。

#### ○三役

幹事長：佐々木敏也（名城大学4年）  
 秘書：佐久間健地（名古屋大学3年）  
 会計：角谷 亜哉（至学館大学3年）

#### ○事業日程

期 日	競 技 会 名	場 所
4月11日	東海学生陸上競技春季大会	知多運動公園 陸上競技場
5月14～16日	第76回東海学生陸上競技 対校選手権大会	瑞穂公園陸上競技場
6月6日	東海学生陸上競技連盟 審判講習会	名古屋工業大学
6月27日	秩父宮賜盃 第42回全日本 大学駅伝対校選手権大会 東海地区選考会	瑞穂公園陸上競技場
8月28日	東海学生陸上競技夏季大会	半田運動公園 陸上競技場
8月28日	第28回全日本大学女子 駅伝対校選手権大会 東海地区選考会	半田運動公園 陸上競技場
10月2日	東海学生陸上競技記録会	東海学生 陸上競技記録会
10月23日	第37回東海学生陸上競技 秋季選手権大会	瑞穂公園 陸上競技場
12月5日	第72回東海学生駅伝対校 選手権大会・第4回東海学生 女子駅伝対校選手権大会	知多半島

(安藤 好郎)

## 実業団

2010年度 中部実業団連盟事業計画は下記の通り

#### 1) 主催事業（競技会）

- ①第54回中部実業団対抗陸上競技大会  
 5月15日（土）～16日（日）多治見
- ②第11回中部実業団陸上競技選手権大会  
 10月11日（月・祝）多治見

- ③第21回中部・北陸実業団対抗女子駅伝競走大会  
 10月17日（日）岐阜県庁発着
- ④第50回中部・第40回北陸実業団対抗駅伝大会  
 11月14日（日）下呂

#### 2) 主催事業（強化合宿／海外遠征）

- ①一般種目（連合事業と共催）
- ・夏期強化合宿 8月6日（金）～13日（金）士別
  - ・冬期強化合宿 2011年2月18日（金）～25日（金）沖縄
  - ・シンガポール選手権 9月上旬（別途決定）シンガポール
- ②長距離（男子）
- ・春期強化合宿 6月3日（木）～12日（土）御岳
  - ・夏期強化合宿 7月8日（木）～17日（土）菅平
  - ・冬期強化合宿（中部トップレベル選手）  
 2011年1月7日（金）～16日（日）宮崎
- ・選抜合宿（連合と共催）  
 8月30日（月）～9月8日（水）士別
- ・選抜合宿（連合と共催）  
 2011年1月12日（水）～21日（金）奄美大島
- ③長距離（女子）
- ・夏期強化合宿 7月6日（水）～13日（火）御岳
  - ・冬期強化合宿 2011年1月21日（金）～28日（金）宮崎
  - ・選抜女子駅伝北九州大会  
 2011年1月7日（金）～16日（日）宮崎

#### □連合主催事業（競技会）

- ①第58回全日本実業団対抗陸上競技大会  
 9月24日（金）～26日（日）新潟
- ②第50回実業団・学生対抗陸上競技大会  
 10月16日（土）小田原
- ③第30回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会  
 12月19日（日）岐阜
- ④第55回全日本実業団対抗駅伝大会  
 2011年1月1日（土・祝）前橋
- 第39回全日本実業団ハーフマラソン大会  
 2011年3月20日（日）山口  
 （樋高 勇二）

## マスターズ陸上

### 心豊かな長寿社会への貢献役

平成21年度の愛知マスターズにとって、最大の出来事は、何と言っても30回目の記念大会となる全日本マスターズ陸上競技選手権大会を無事終えることができたことではないでしょうか。

大会を取り巻く環境は、準備を始めた頃と09年では大きく様変わりをし心配をお掛けしました。関係された皆様方の多大なご支援と愛知マスターズの役員の方々の皆様が一致団結した結果、大会運営面や収支面において、ほぼ順調に終了することができたのではないかと思います。皆様には心からお礼を申し上げます。

思い起こせば、暖かいご協力やいろいろな手落ちを経験しながら進めた準備の日々、選手受付所の混乱防止策の検討、競技面では大会初日の第1レースで転倒し骨折者が生じ、この先どうなることかと心配しましたが、大きなケガをした選手は何とか3人で終えることができました。などなど頭に浮かんできますが、大会や競技を運営する上で大きかったのは大会3日間天候に恵まれたことでした。

幸運にも助けられました。二度と再びこのような貴重な経験はできないのではないかと、思っています。

2件目は、新年度早々の4月26日(日)鳥取市で開催された第22回都道府県対抗全日本マスターズ駅伝大会エールダーの部で愛知県チームが初優勝したことです。

突風と雨の中、第1区(女子50歳以上5km)2位に始まり、第2区(男子65歳以上3km)でトップに立ち第3区(女子55歳以上3km)で2位に下がったものの、最終区の第4区(60歳以上5km)が前を走る大阪を抜きゴールし初優勝となりました。

私の個人的なこととなりますが、アンカーを走らせていただき優勝のゴールテープを切った感動は、今でも目に浮かびます。

なお、男子の部はこれまでの最高位である3位でしたが、2区では同着ではありますがトップに立つ見せ場もありました。メンバーが揃ってきましたので、今後、優勝も夢ではないところまで来たと思います。

3件目は、今年度の全国スポレク祭マスターズ陸上が宮崎市で開催され、20名の選手を派遣しました。監督には宮崎裕子が、愛知マスターズとしては初の女性監督を務め、参加した選手が活躍しやすい雰囲気醸成し、大いに成果を挙げました。

全国のマスターズ陸上は、女性会員の獲得が大きな課題となっています。愛知マスターズにおいても女性会員がまだまだ少ないことから、これを契機に女性がどんどん増えることが期待されます。

以上のような初物のほか、全国スポレク祭代表選手選考会や記録会の開催(今年度は全国大会を控えていましたので1回のみ)をしました。(佐野 昭二)

## 愛知陸協 OB 会

愛知陸協 OB 会は、会員相互の親睦、友好を深め、陸上競技界の発展に寄与することを



目的に故高橋公一前会長の発案により平成11年に設立されました。

以来、愛知選手権第一日目の競技終了後、瑞穂ラグビー会場会議室において、総会・懇親会を開催し、秋には日帰り旅行、更に1月に一泊の新年懇親会を開いています。

現在、134名の会員で運営しています。

60才以上で公認審判員の資格を有し、各種大会に参加し貢献している方は、各支部世話人会を通じぜひ入会して下さるようお待ちしております。

平成21年度は、総会に引き続き10月20日に三方五湖・長浜黒壁スクウェアを散策し、昼食はカニ料理に舌鼓、更に三方五湖遊覧船に乗船し、楽しい一日でした。

新年懇親会は1月26日～27日、尾張支部の担当で、レイクサイド入鹿でゆっくりくつろぎ、夜の懇親会にはぎやかに過ごすことができました。しかし、残念なことに東三河支部世話人の安藤昌男氏と尾張支部世話人の森満寿男氏が病気のため長期入院されておられ、一日も早く回復され元気な顔を見せて下さるよう祈念しております。

(村瀬雄一郎)

## 競技会報告

### 第71回東海学生駅伝対校選手権大会

2009年12月6日(日) コース：知多半島一周 7区間

男子成績(太字は愛知)

1	中京大 A	3.26.26		
(渡邊大介・山下 洸・三方勇輔・橋本一樹・神谷泰光・高木竜一・佐藤大貴)				
2	名大 A	3.27.00	7	愛教大 3.33.38
3	愛工大 A	3.27.33	8	愛学大 3.36.52
4	三重中京大	3.31.02	9	名城大 3.38.25
5	皇學大	3.32.02	10	愛知大 3.43.04
6	静岡大	3.32.45		

### 第3回東海学生女子駅伝対校選手権大会

2009年12月6日(日) コース：知多半島半周 5区間

女子成績(太字は愛知)

1	名城大 A	1.28.42		
(井原未帆・谷水見圭・西川生夏・川畑静香・津崎紀久代)				
2	中京大	1.34.28	7	愛学大 1.45.20
3	愛教大	1.36.33	8	名城大 B 1.29.46
4	椙女大	1.39.39	9	名城大 C 1.31.03
5	中京女大 A	1.41.34	10	学連混成 A 1.34.59
6	岐阜大	1.44.55		

### 2009年駅伝カーニバル 兼 2010 第64回名岐駅伝競走大会予選会

2009年12月13日(日) 庄内緑地公園周回コース

成績

男子一般

1	愛知教育大	2.04.33		
(荻久保吉隆・小塚雄介・丸尾健太・鈴木慶輝・浅野竜也・伊藤文浩)				
2	名城大	2.06.40	5	TTランナーズ 2.07.39
3	愛知学院大	2.06.58	6	名大倶楽部 2.07.51
4	守山自衛隊	2.07.07		

男子高校

1	豊田高専	1.57.21		
(鈴木隼爾・國原聡・長谷川慎・五十嵐友也・小木曾豊・平岩紀人)				
2	東邦	1.58.24	5	西尾 1.59.38
3	至学館	1.59.01	6	岡崎西 1.59.54
4	瑞陵	1.59.32		

中学男子

1	竜海 A	45.23		
(大川優弥・森川和哉・上畑涼太郎・井畑仁志・高橋一生)				
2	葵	45.24	5	矢作北 A 46.04
3	六ッ美北 A	45.38	6	岡崎北 A 46.05
4	美川	45.44		

## 女子一般高校

1	千種高	1.08.27		
(向井香瑛・小林史佳・竹内桃子・立田愛美・伊藤菜月)				
2	至学館高	1.08.58	5	愛知学院大 1.11.58
3	光が丘高	1.10.34	6	庄内 RT 1.12.42
4	刈谷高	1.10.50		

## 女子中学

1	岡崎南 A	45.26		
(天野可菜・新田すみれ・杉本侑菜・山原愛里・国澤 望)				
2	竜海 A	45.31	5	美川 A 47.16
3	岩津 A	46.15	6	竜南 47.29
4	石巻	47.08		

## 第62回渥美半島駅伝競走大会

2009年12月20日(日)  
男子：伊良湖岬一豊橋技術科学大学前  
女子：伊良湖岬一赤羽根市民センター前

## 一般男子(本県分のみ)

2	トヨタスポーツマンクラブ A	2.13.48
4	TPAC-A	2.14.53
5	守山自衛隊 35 普連	2.15.37
7	TPAC-B	2.17.37
9	トヨタスポーツマンクラブ B	2.20.25
10	愛知大学 A	2.21.59

区間賞 3区(7.4km) 中西洋一(トヨタスポーツマンクラブ A) 22.13

## 高校男子(本県分のみ)

1	愛知 A	2.14.55
2	岡崎 A	2.15.05
3	岡崎城西 A	2.16.41
5	愛工大名電 B	2.19.15
8	愛工大名電 C	2.20.27
9	愛知 C	2.22.35
10	岡崎城西 B	2.22.37

区間賞 2区(9.0km) 村重 侑(岡崎 A) 27.02  
3区(7.4km) 神谷信次(愛知 A) 22.31  
4区(8.2km) 渥美祐次郎(岡崎 A) 25.03

## 一般女子(本県分のみ)

2	中京大中京高 A	1.07.14
3	光ヶ丘女子高	1.07.17
4	岡崎城西高 A	1.07.57
5	至学館高	1.08.41
7	千種高	1.09.40
8	名経大高蔵高	1.10.06
9	刈谷高	1.10.57
10	成章高	1.10.59

区間賞 1区(3.0km) 間瀬彩奈(成章) 09.45  
2区(4.4km) 小林史佳(千種) 14.26  
5区(4.6km) 清田真央(中京大中京 A) 14.53

## 第17回全国中学校駅伝大会

2009年12月19日(土)  
山口県セミナーパーク・クロスカントリーコース  
男子の部(18km) 女子の部(12km)

## 男子成績(本県分のみ)

第34位 杏掛 59.58

(加藤高德・寺嶋優太・谷口跳馬・寺嶋誠二・松林大貴・松田章吾)

## 女子成績(本県分のみ)

第11位 杏掛 42.37

(二宮絵梨佳・小林礼佳・下村怜伽・村瀬夢奈・鷺見梓沙)

## 第60回全国高校駅伝(男子)

2009年12月20日(日)  
西京極運動公園陸上競技場 7区間 42.195km

## 成績(本県分のみ)

第26位 豊川工 2.09.00

(小島秀斗・石黒大介・正木 翔・西尾尚也・近並 郷・奥野翔弥・小山裕太)

## 第21回全国高校駅伝(女子)

2009年12月20日(日)  
西京極運動公園陸上競技場 5区間 21.0975km

## 成績(本県分のみ)

第1位 豊川 1.08.27

(伊澤菜々花・安藤友香・鈴木美乃理・下村環加・ムルギ・ワイナイナ)

区間賞 1区(6.0km) 伊澤菜々花(豊川) 19.43  
5区(5.0km) ムルギ・ワイナイナ(豊川) 16.04

## 第41回元旦ロードレース・競歩大会

平成22年1月1日(金・祝) 庄内緑地公園周回コース

## 成績

## 一般男子10km

1	加藤 聡(トヨタ自動車)	31.54
2	林 勇輝(大同特殊鋼)	32.19
3	中村 賢治(小牧でんでんむし)	33.48

## 一般男子20km競歩

1	宇波 栄樹(亀の井ホテル)	1.27.10
2	甲斐 大地(小松短大)	1.39.08
3	栗林 剛正(富山大)	1.40.19

## 高校男子10km

1	鈴木 一史(熱田)	34.23
2	伊藤 英晃(愛産大三河)	34.53
3	伊藤 賢真(津島北)	35.01



高校男子 10km 競歩

- 1 久保田泰典 (至学館) 51.17
- 2 横井 真允 (津島北) 54.31
- 3 黒木 広夢 (津島北) 55.26

一般高校女子 10km

- 1 矢野 由佳 (星翔高) 36.28
- 2 山本ちなみ (星翔高) 38.29
- 3 今泉 志穂 (東邦高) 39.07

一般高校女子 5km 競歩

- 1 上野 侑香 (日本陸走) 24.35
- 2 坂本 加奈 (小松短大) 24.50
- 3 中 友香 (星翔高) 26.19

都道府県対抗男女駅伝報告

本年度より都道府県駅伝大会は、天皇杯・皇后杯が下賜され権威ある大会となりました。今年度愛知県選抜チームは国体男女のリレーでの入賞、ジュニアオリンピックのリレーで男子優勝、女子2位と活躍してきました。この流れを都道府県対抗駅伝においても繋げて行きたいと、選考会から選手に対して意識の高揚を図り大会に臨みました。

女子は急遽選手変更したアンカーの加藤麻美選手（パナソニック、豊川高出身）を含む、高校駅伝全国制覇を果たした豊川高校勢を中心とした選手で編成しました。

高校生、中学生区間で入賞ラインに届いていながら、ここ数年、アンカーの実業団区間で後塵を拝する結果に甘んじてきた女子駅伝でしたが、7年振りに果たした入賞は6区までの力とアンカーの加藤麻美選手の粘りの結果だと分析できます。

今年は、中学生区間が全国レベルから考えるとやや力不足でした。選考レースではそれを象徴するような牽制しあった展開に、スタッフは不安を感じていましたが、それを払拭する中学生区間の頑張りも入賞の原動力となりました。

大学生、実業団選手が多く走る1区を任せられた鈴木亜由子選手（時習館高）の走りは、怪我からの復活を印象付けました。大学生となる来年以降も愛知の牽引車として走ってくれるものと期待しています。

今後、チーム愛知が女子駅伝で優勝するためには、他県に倣いアンカー区間での日本代表レベルの選手起用が不可欠です。伊澤菜々花選手あたりにその期待が高まるでしょう。

女子が入賞を果たしたことで、有力な実業団選手を要する男子は、女子を上回る期待感を持ちました。高校生区間が充実している女子と比べると、男子は選手配置に若干不安を有するものでした。

結果的には、1区の高中生区間での出遅れを挽回する展開となり、区間毎に総合順位を上げましたが、入賞できなかったレースとなりました。

都道府県対抗駅伝は、高校駅伝に出場が叶わない一匹狼的な力のある地方の有力選手の発掘にも寄与しています。今回の男子愛知選手は7区間全てで所属の異なる選手配置となり、都道府県駅伝ならではの醍醐味のあるチーム編成となりました。中でも中盤順位を上げた高校生区間の2選手、山口浩勢選手（惟信）と宍倉恒哉選手（弥富）は、県代表で全国大会が走れる至福の気持ちを抱き、健闘してくれました。“県代表になる想い”の強い選手起用の大切さを

を示してくれた選手達です。今後は一般選手区間においても、本県で育成した郷土の想いが強い選手を起用する選考も検討しなければなりません。

6区の中学生区間で、県勢最高の区間2位であった西山令選手（葵）は2年生での出場でした。今後、毎年県代表として活躍してくれる選手として期待が広がるでしょう。

今年も両大会において、大会期間中愛知県人会の皆様からの激励やご厚情を賜り、感謝の念を禁じえませんでした。故郷を離れ、愛知出身を心の糧として生活されている方々の応援を背に受けての大会参加は、心震わせるものがありました。今後、チーム愛知をますます発展させるためには、選手を送り出す本県の皆様が、大会の雰囲気を楽しみつつ、京都、広島の地で声をかけていただけるようになれば、この上ない追い風になると思います。

本大会関係各位、とりわけ所属する選手起用に関して、ご配慮頂いた所属の皆様方にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

第28回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会成績

京都西京極陸上競技場発着

区間(距離)	選手	所属	時間	区間成績	通過順位
第1区 6km	鈴木亜由子	時習館高	19.43	23位	23位
第2区 4km	伊澤菜々花	豊川高	12.47	6位	13位
第3区 3km	西川かりん	富貴中	09.46	15位	11位
第4区 4km	鈴木美乃里	豊川高	12.58	4位	6位
第5区 4.1075km	安藤 友香	豊川高	13.11	3位	3位
第6区 4.0875km	中條 宏美	ワコール	12.59	2位	3位
第7区 4km	竹内 愛美	愛知電機	12.59	9位	4位
第8区 3km	堀 舞花	祖父江中	10.16	7位	3位
第9区 10km	加藤 麻美	パナソニック	33.18	24位	7位

第15回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会成績

広島市平和記念公園前発着

区間(距離)	選手	所属	時間	区間成績	通過順位
第1区 7km	小島 秀斗	豊川工高	20.59	32位	32位
第2区 3km	金尾 圭祐	東港中	8.58	18位	29位
第3区 8.5km	吉村 尚悟	トヨタ自動車	24.40	16位	22位
第4区 5km	山口 浩勢	惟信高	14.34	6位	14位
第5区 8.5km	宍倉 恒哉	弥富高	25.14	13位	12位
第6区 3km	西山 令	葵中	8.46	2位	11位
第7区 13km	佐藤 秀和	トヨタ紡織	38.34	16位	10位

第64回名岐駅伝 2010年2月7日(日)

成績

男子一般の部 (大垣城ホール前~中日新聞社)

- 1 トヨタ自動車 2.31.18  
(浜野 健・吉村尚悟・杉本将友・マーティン ムクレ・熊本 剛・内田直将)
- 2 愛知製鋼 2.31.19
- 3 NTN 2.32.28
- 4 スズキ 2.33.09
- 5 トヨタ紡織 2.33.31
- 6 愛三工業 2.34.22

男子高校の部 (岐阜県庁前~中日新聞社)

- 1 上野工 1.59.06 (大会新)  
(松本賢太・中川 瞭・中村匠吾・土井久理夫・齋田直輝・

清水清輝)

2	佐久長聖	1.59.31
3	浜松日体	2.00.08
4	中京	2.01.01
5	豊川工	2.01.23
6	遊学館	2.01.29

## 第45回千葉国際クロスカントリー大会

2010年2月14日(日) 千葉市昭和の森

成績(県内選手のみ20位まで)

## ◆中学女子 3000m

18位 鷲見 梓沙 杏掛 10.18

## ◆ジュニア男子 4000m

3位 山本 健太 豊川 12.22

## ◆ジュニア女子 5000m

優勝 伊澤菜々花 豊川 16.24

5位 安藤 友香 豊川 16.34

17位 鈴木亜由子 時習館 16.50

## ◆一般男子 4000m

10位 今枝 浩二 神奈川大 11.57

## ◆一般男子 12000m

2位 マーティン ムクレ トヨタ自動車 35.22

## 第24回福岡国際クロスカントリー大会

2010年2月27日(土) 国営海の中道海浜公園クロスカントリーコース

成績(県内選手のみ20位まで)

## ◆ジュニア男子 8000m

18位 小島 秀斗 豊川工 24.26

## ◆ジュニア女子 6000m

優勝 伊澤菜々花 豊川 19.50

2位 安藤 友香 豊川 19.51

3位 鈴木美乃里 豊川 19.52

10位 鈴木亜由子 時習館 20.06

## ◆ジュニア女子 4000m

14位 福沢 志穂 豊川 14.11

## ◆ジュニア男子 8000m

10位 豊川工 合計順位 164

(小島秀斗 18 小山祐太 66 奥野翔弥 80)

## ◆ジュニア女子 6000m

優勝 豊川 合計順位 6

(伊澤菜々花 1 安藤友香 2 鈴木美乃里 3)

## ◎第38回世界クロスカントリー大会

3月28日(日) ポーランド・ビドコシチ

千葉国際クロカンと福岡国際クロカンの2つの選考競技会を通じ、日本代表選手24名が決定。豊川高校の伊澤菜々

花・安藤友香・鈴木美乃里の三選手が選抜されました。

おめでとうございます。祈、健闘!

## 第32回読売犬山ハーフマラソン

2月28日(日)、名証犬山総合運動場を発着点とする日本陸連公認コース(21.0975kmと10km)で開催された。新設された登録10km(男子・女子・高校男子・高校女子)を加えた8種目(469名完走)で行われた。犬山市・読売新聞社をはじめ、レース運営にご支援いただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。



スタートする選手たち



優勝した杉本選手

写真提供…読売新聞社

大会成績結果(太字は愛知)

## 登録ハーフ男子

1	杉本 芳規(愛知製鋼)	1.04.07
2	塩田 好彬(トヨタ紡織)	1.04.12
3	宮城 和臣(トヨタ紡織)	1.04.13
4	大関 善幸(愛知製鋼)	1.04.14
5	川畑 憲三(愛三工業)	1.04.17
6	久野 雅浩(NTN)	1.04.22

## 登録ハーフ女子

1	才上裕紀奈(積水化学工業)	1.13.06
2	馬場佐由里(積水化学工業)	1.15.05
3	空山真由美(小島プレス)	<b>1.18.36</b>
4	小田切綾乃(愛知電機)	<b>1.20.08</b>
5	川本 和美(福井フェニックス陸上クラブ)	1.22.01
6	平井恵美子(枚方マスターズ)	1.23.36

## 登録ハーフ大学男子

1	攪上 宏光(駒澤)	1.04.14
2	近藤 洋平(法政)	1.04.15
3	大津 翔吾(東洋)	1.04.44
4	小松 紀裕(東海)	1.04.46
5	後藤田健介(駒澤)	1.04.58
6	千葉 貴士(東洋)	1.05.07

## 登録ハーフ大学女子

1	松本 千景(愛知教育)	1.24.50
2	光田 真穂(椋山女学園)	1.25.46
3	曾根原華子(椋山女学園)	1.27.40
4	大野 仁子(椋山女学園)	1.28.25
5	野田ひろみ(椋山女学園)	1.29.48
6	長谷場仁美(中京女子)	1.32.47

登録 10km 男子

1	田口 裕弥 (トヨタ紡織)	30.39
2	大久保幹也 (NTN)	30.43
3	林 星夜 (トヨタ紡織)	31.07
4	平田 一真 (奈良産業大)	31.08
5	山内健太郎 (NTN)	31.29
6	安田 健人 (中京大)	31.41

登録 10km 女子

1	三浦 玲 (大塚製薬)	34.00
2	竹内 愛美 (愛知電機)	35.26
3	山下亜津沙 (中京大)	36.00
4	野口 美穂 (大塚製薬)	36.01
5	松野 真帆 (中京女子大)	36.22
6	宮澤侑紀奈 (愛知電機)	36.23

登録 10km 高校男子

1	浅岡 満憲 (中京)	31.03
2	水野 眞治 (豊川工)	31.22
3	萩野 凱斗 (豊川工)	31.36
4	田村 勇汰 (中央学院)	31.47
5	西村 勇紀 (豊川工)	31.53
6	吉澤 直樹 (豊川工)	32.04

登録 10km 高校女子

1	松山 芽生 (益田清風)	35.28
2	佐々木玲奈 (豊川工)	35.41
3	今泉 志穂 (東邦)	36.47
4	佐藤 未希 (益田清風)	38.54
5	後藤 麻由 (中京大中京)	39.44
6	内山 千佳 (益田清風)	39.48

**第 65 回びわ湖毎日マラソン大会**  
 2010年3月7日(日) 午後12:30 スタート  
 日本陸連公認びわ湖毎日マラソンコース 42.195km

成績 (本県分 50 位まで)

9	菅谷 宗弘 (トヨタ自動車)	2.15.07
14	佐藤 彰浩 (愛知製鋼)	2.18.14
15	仲野 旭彦 (愛三工業)	2.18.20
39	浜野 健 (トヨタ自動車)	2.23.46
43	中野 哲也 (庄内 RT)	2.24.15
49	藤永 紘基 (名古屋大)	2.24.37
50	南 智浩 (愛三工業)	2.24.37

**第 31 回名古屋国際女子マラソン**

3月14日(日)、好天の中、アジア大会代表選考会を兼ねて、名古屋市瑞穂陸上競技場を発着点とする42.195kmの公認コースで開かれ、加納由理選手(セカンドウィンドAC)が初優勝した。(財)日本陸上競技連盟と中日新聞社をはじめ、レース運営にご支援いただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。



競技場をあとにする先頭集団  
 記者会見する加納選手

**第 20 回西田修平・高橋公一記念  
 国際室内棒高跳競技大会**  
 平成 22 年 3 月 6 日 (土) 中京大学豊田学舎大体育館

成績 (太字は愛知)

国際男子

1	萩田 大樹 (関西学院大)	5.33
2	笹瀬 弘樹 (早稲田大)	5.23
3	川口 直哉 (筑波大)	5.13

国際女子

1	我孫子智美 (同志社大)	4.02
2	多久優麗花 (日大)	3.62
3	尾上 裕香 (日体大)	3.62

男子選抜

1	佐小田孝一 (日体大)	5.00
2	岡田 公志 (中京大)	4.90
3	田村 雄志 (中京大)	4.80

女子選抜

1	青島 綾子 (日体大)	3.80
2	小田嶋怜美 (木更津総合高)	3.70
3	前田 朋子 (中京大クラブ)	3.70

大会成績結果 (1 ~ 10 位)

1	加納 由理	東京・セカンド・ウィンド AC	2.27.11
2	デラルツ・ツル	ETH・エチオピア	2.28.13
3	大南 博美	愛知・トヨタ車体	2.28.35
4	伊藤 舞	徳島・大塚製薬	2.29.13
5	藤田 真弓	長崎・十八銀行	2.29.36
6	脇田 茜	千葉・豊田自動織機	2.29.54
7	奥永 美香	福岡・九電工	2.30.19
8	町田 祐子	宮城・日本ケミコン	2.31.42
9	堀越 愛未	群馬・ヤマダ電機	2.32.44
10	ローズ・ケルボ・ニャンガチャ	KEN・ケニア	2.33.16

県勢の活躍 (50 位以内)

38	本庄 愉美	愛知県庁クラブ	2.57.05
43	加古 光江	愛知健康の森	2.58.52
49	檜尾 園子	名城 ARC	2.59.44

**理事会等会議報告**

○常務理事会 平成 22 年 1 月 8 日 (金) 愛知県教育会館

1 協議事項

- ①各栄章候補者について
  - ・日本陸連有功章贈与候補者

- ・秩父宮章贈与候補者
  - ・平沼亮三章贈与候補者
  - ・河野謙三章贈与候補者
  - ・春日弘章贈与候補者
  - ・河野一郎章贈与候補者
  - ・平成 21 年度愛知県体育協会表彰候補者
- ②平成 22 年度の競技会等の日程について
- ③公認審判員の昇格候補者の推薦について
- ・S級 4 名・A級 6 名推薦
- ④名古屋国際女子マラソン大会について
- ・委員・業務・日程について
- ⑤読売犬山ハーフマラソン大会について
- ⑥その他

## 2 報告事項

- ①日本陸連評議員会報告
- ・平成 22 年度主要競技会日程について
  - ・不正スタートの新規則適用について
  - ・その他
- ②各専門委員会からの報告
- (強化委員会)
- ・JAAFアスリート発掘育成プロジェクト
  - ・愛知陸上競技教室実施要項
- (記録委員会)
- ・2009 年に更新された県記録の報告
- ③その他
- ・至学館大学陸上競技大会の要項について  
(稲垣 裕)

## 東海陸上競技協会 報告

常務理事会が平成 22 年 1 月 20 日(水)に開催され、國分一郎東海陸上競技協会理事長のあいさつの後、下記のこと

が議題として出され、慎重審議されました。

- 議題(1)平成 22 年度東海地域行事予定(案)について
- (2)日本陸上競技連盟栄章参贈与候補者の推薦について
- ・有功章候補に國分一郎東海陸協理事長(愛知陸協副会長)が、秩父宮章候補に坂井田醇三愛知陸協名古屋支部理事長が、東海陸協から推薦されることになりました。
- (3)第 53 回東海選手権大会・第 27 回東海小学生リレー競走大会要項(案)について
- ・第 53 回東海選手権大会  
期日 平成 22 年 8 月 28・29 日(土・日)  
会場 松本平広域公園陸上競技場
  - ・第 27 回東海小学生リレー競走大会  
期日 平成 22 年 8 月 29 日(日)  
会場 松本平広域公園陸上競技場
- (4)平成 22 年度・平成 23 年度秩父宮章・各県別配分について
- ・愛知の配分 22 年 1 名 23 年 1 名  
※当初 23 年は 2 名の予定でしたが、協議の結果、1 名になりました。その分は、三重が 0 でしたので、1 名の配分となりました。

## 栄 章

おめでとうございます

### ◎旭日重光章受章

平成 21 年度秋の叙勲において、愛知陸上競技協会梅村清弘会長が「旭日重光章」(私学振興功労)を受章されました。平成 5 年の「藍綬褒章」(私学振興功労)受章に続くもので、この度の栄誉に愛知陸上競技協会あげて、心よりお祝い申し上げます。受章にともない、「梅村清弘、旭日重光章受章、感謝の集い」が、平成 22 年 1 月 28 日(木)に名古屋市内のホテルで、元内閣総理大臣森喜朗衆議院議員をはじめ約 800 名の出席者により盛大に行われました。今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

◎平成 21 年度愛知県体育協会体育表彰式が平成 22 年 3 月 16 日(火)「ウイルあいち」(愛知県女性総合センター)で行われました。受賞された皆様には、心からお祝い申し上げます。

### 1 特別優秀選手、監督

(日本選手権連続優勝) 室伏広治

### 2 体育功労者

(スポーツ振興)

大島 修	大津賀 賢	八田 定丸
田口 茂	小林 暎治	蟹江 賢治
白井 公子	石田美知枝	

### 3 優秀選手、監督

(国際競技会優秀成績)

中尾 勇生	室伏 由佳	中田 有紀
-------	-------	-------

(国民体育大会優勝)

室伏 由佳

(日本選手権大会等優勝)

室伏 広治	中田 有紀	室伏 由佳
森 安彦	伊澤奈々花	鈴木美乃里
安藤 友香	下村 環加	ワイナイナ・ムルチ
鷲見咲也加	山田和佳奈	福沢 志穂
古池 勁太	三浦 豊成	中村 健太
渡辺 将志	酒谷 昇呉	宮 匠
西山 令	岩崎 聖	秋江 洋志
河室 裕貴	掛川 真	鈴木 祐太
井面 拓也	伊藤 勉	

(稲垣 裕)

## 編 集 後 記

◆冬季オリンピックの感動が今も残る 21 年度も、国際女子マラソンを最後に 1 年の行事を無事終えることができた。加納選手のマラソン初優勝の涙と笑顔が素敵であった。◆「競技場めぐり」欄を新設し、知多陸上競技場誕生の歴史を知ることができた。先人の苦勞を振り返り、審判や競技ができたなら幸いである。◆22 年度がもう目前。トラックシーズンの幕開けである。新たなスタートを大切にしたい。◆この 1 年間、たくさんの方々のご支援ご協力に多謝。

## 編 集 委 員

占部 輝之	大久保真理子	大西 敏功	外山 修
中尾 洋一	新美 準人	西垣 完彦	野口 一昭
山本 三郎			